

鹿児島地本だより

第46号
(令和5年 新年号)

発行元 自衛隊
鹿児島地方協力本部

印刷所 南日本出版株式会社



新年のご挨拶

自衛隊鹿児島地方協力本部長
1等海佐 稲崎 精一郎

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、令和5年の新年を健やかに迎えのこ

ととお慶び申し上げます。また、旧年中は、自衛隊鹿児島地方協力本部に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年、国連安保理常任理事国であるロシアが隣国ウクライナに軍事侵略するという安全保障上の大きな転換点を迎えた年となりました。加えて、中国が尖閣諸島周辺で領海侵入を頻りに繰り返す中、露の艦艇が我が国周辺において共同航行を行うなど海洋進出を活発化させるとともに、北朝鮮が弾道ミサイル及び中長距離ミサイルの発射を繰り返す等、我が国を取り巻く安全保障環境は、緊迫の度を増してきております。

防衛省においても、我が国の安全保障と防衛に関する政策の見直しが進められ、まさに防衛力の強化が議論されている中で、人

的基盤の拡充は喫緊の課題となっております。

このような情勢の中、令和4年度の募集状況は、近年に比してもさらに厳しい状況が続いており、鹿児島地方協力本部と致しまして、これまでとは違う募集広報における創意工夫を取り入れながら、部員一丸となつて各種募集目標の達成に邁進しているところであります。

また、退職予定隊員の就職支援については、昨年7月に48社のご協力を得て、任期制隊員等合同企業説明会を開催し、退職自衛官の有用性等について各企業様のご理解を得ながら、再就職支援に取り組んでおります。予備自衛官等の確保につきましても示された目標達成に向け、鋭意努力を続けております。

更に、広報については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの制約を受ける中、感染拡大防止対策を万全とし、昨年7月に3年ぶりとなる自衛隊み

なと祭りを一般公開として開催し、多くの県民の皆様にご来場いただきました。

また、センテラス天文館や天文館商店街ぴらもーるでの市街地広報をはじめ、各地域のイベントにお邪魔して、募集ブースの出版及び装備品の展示等、自衛隊の魅力等についてPRさせていただきました。

本年も、新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況であり、新たな生活様式の実践等、昨年同様、様々な行動に制約を受け、中々ではありますが、皆様とこれまで以上に交流を深めさせていただきたいと考えておりますので、引き続き我々の諸活動に対するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新年が皆様にとりまして、多く素晴らしい年となり、ますように祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

鹿児島県防衛協会
会長 塩田 康一

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

自衛隊鹿児島地方協力本部の皆様、県内の陸上、海上及び航空自衛隊の皆様、並びに鹿児島県防衛協会はじめ自衛隊協力団体の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

自衛隊鹿児島地方協力本部におかれましては、昭和29年7月に発足されて以来、長きにわたり、自衛官の募集や退職者の再就職など就職支援等に尽力され、ともに、災害や国民保護等に関する自衛隊及び県内自治体との連携・協力等に多大な御支援を賜り、深く敬意と感謝の意を表します。

日本周辺の安全保障環境が一段と厳しさを増す中、自衛隊におかれましては、国防のため、国内外、昼夜を問わず重大な任務を遂行されています。また、長引くコロナ禍におけるワクチン大規模接種会場の運営や、全国各地で頻発する豪雨など自然災害等における応急・復旧対策など、国民の生命・財産に関わる広範・多岐にわたる任務も着実に遂行されています。

本年が皆様にとって、幸多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

本県におきましても、離島で発生する急患の搬送や各種防災訓練等への参加、近年では、昨年1月に奄美群島・トカラ列島に発表された津波警報の際の避難住民の駐屯地への受け入れや昨年9月に発生した台風第14号に伴う特別警報発表の際の災害派遣の備えなど、数々の任務に当たっていただいております。

自衛官を志願し入隊される若者を本県も毎年多く輩出しており、そのうち隊員の皆様の顕著な御活躍を拝見するたび、感謝し大変心強く感じているところであります。

自衛隊鹿児島地方協力本部の皆様には、日頃から県の防災、救急救命など危機管理行政の推進に格別の御理解・御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、引き続き、県内自治体及び市民と自衛隊部隊及び隊員の皆様を繋ぐ架け橋として御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、年頭に当たり、本年が皆様にとって、幸多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

新年の挨拶といたします。



新年のご挨拶

自衛隊鹿児島地方協力本部後援会
会長 谷川 洋造

新年明けましておめでと。ナ海において、力を背景としうございます。自衛隊鹿児島地方協力本部後援会の皆を執拗に継続する等、重大な様をはじめ、自衛隊鹿児島地方協力本部の皆様並びに、リスクを抱えています。この防衛協力諸団体の皆様、謹ような状況下において、先の新春のお慶びを申し上げます。

昨年、自衛隊鹿児島地方協力本部後援会に對し、近年の厳しい安全は、「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンの保障情勢の認識・変化を「太平洋」という多層的・多層の理解のもと、各関係機関・団体、関係各国と多層的・多層の皆様から格別のご高配な安全保障協力を戦略的に賜り、厚く御礼申し上げます。また、自衛隊鹿児島地方協力本部におかれましては、稲崎精一郎本部長を核として、自衛隊鹿児島地方協力本部は、自衛官の務に邁進してあり、更なる募集・採用、退職予定隊員の飛躍と発展を揺るぎないものとして活動を続けております。

さて、昨年はロシアによるウクライナ侵略という国際秩序の根幹を揺るがす衝撃的な出来事が生じました。これは、国連の常任理事国が国連憲章を含む国際法を無視して起こした深刻な違反行為であり断じて許し難いものです。1日も早い終結を願ってやみません。

また、わが国周辺地域を取り巻く安全保障環境に目を向けるとともに、自衛隊鹿児島地方協力本部の今後益々の発展と部員並びにご家族の健康と安全を祈念して、新年の挨拶といたします。

※「鹿児島地本」は「自衛隊鹿児島地方協力本部」の略称です。



新年のご挨拶

会長 有村 長藏

公益社団法人自衛隊家族会
鹿児島県自衛隊家族会



新年のご挨拶

会長 宮口 修一

公益社団法人
鹿児島県隊友会

新年明けましておめでとうございます。

自衛隊鹿児島地方協力本部の皆様、後援会の皆様、隊友会並びに自衛隊家族会の皆様、ご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

自衛隊鹿児島地方協力本部の皆様には、自衛隊家族会の活動につきまして、年間を通じて県内各地でお世話になっております事、心から御礼申し上げます。

自衛隊鹿児島地方協力本部におかれましては、コロナ禍、様々な活動が制限される中で、入隊適齢人口の減少、高学歴化等厳しい募集環境で将来を担う自衛官募集並びに退職隊員が希望する就職・援護の任務を稲崎本部長を核心に見事に達成されている事に敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年二月のロシアによるウクライナ侵攻、核開発及びミサイル発射実験を繰り返す北朝鮮、軍事力を背景とした中国の覇権的行動等東アジアにおける安全保障環境は近年で最も厳しい状況であります。自衛隊は、日夜分たぬ警戒・監視任務、海外任務、国際緊急援助活動及び災害派遣活動等多様な任務を遂行されています。

私たち自衛隊家族会は、県民の防衛意識の普及・高揚並びに防衛基盤の確立を目的に活動を続けておりますが、今後も隊員の身近な存在としてあらゆる機会をとらえて自衛隊を支援して参りたいと考えております。

後援会員の皆様におかれましては、地方協力本部の円滑な業務運営の為、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。今後も後援会副会長として誠心誠意努めて参りますので重ねて宜しくお願い申し上げます。

終わりに、鹿児島地方協力本部の益々のご発展と隊員の皆様、関係各位のご健勝・ご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶と致します。

新年明けましておめでとうございます。

鹿児島地方協力本部の皆様、家族会の皆様、後援会の皆様におかれましては、コロナ禍にも負けずご健勝にて新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。地方協力本部の皆様には、県隊友会本部をはじめ、県内各地で活動しています各支部がご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

地方協力本部におかれましては、入隊適齢人口の減少、高学歴化の情勢に経済の低迷や広報活動を困難にしているコロナ禍が加わり極めて複雑で厳しい募集・援護環境の中、稲崎本部長の御統率のもと総力を挙げて任務に邁進されておられますことに心から敬意を表します。

さて、我が国に隣接し国連常任理事国でありながら力による一方的な現状変更を試みまた行おうとしているロシア・中国、これにミサイル発射を幾度となく繰り返す北朝鮮を含む核保有国が国連を無視する軍事活動を続け、我が国の安全保障環境は更に不安定さを増しており、国連中心主義を外交の柱とし、かつ専守防衛というこれまでの受動的な防衛戦略から防衛力の増強を含む安全保障政策の大幅な見直しを余儀なくされています。

我が自衛隊はいかなる状況にも対処するため厳しい訓練を実施し、頻発する自然災害やコロナ禍への災害派遣にも訓練の成果を発揮してりつぱに任務を完遂しています。私たち隊友会も鹿児島地方協力本部と連携し「国民と自衛隊の架け橋」として活動してまいります。

厳しい募集・援護環境ではありますが、鹿児島地方協力本部の更なるご発展・ご活躍を祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

課画班
課企援
令和4年度自衛隊殉職隊員
慰霊祭を支援

自衛隊鹿児島地方協力本部は、令和4年10月15日(土)、鹿児島県護国神社において鹿児島県隊友会が主催する「令和4年度自衛隊殉職隊員慰霊祭」を支援しました。

本慰霊祭は、昭和40年から実施され鹿児島県護国神社に祀られた111柱の御霊の安らかな眠りを祈念するものであり、鹿児島県隊友会がご遺族 19名を招いて肅々と執り行われました。

新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいるとは言え、依然として感染者の増減が継続しており、県内の各種行事の延期及び中止が相次いでいる中、ご遺族の強い希望を受け、今年度も規模を縮小のうえ実施されました。

ご遺族からは、「感染症対策が十分にされており、安心して参列することができた。」「3年ぶりの参列であり、本殿で申す事ができてよかった。来年も是非参列したい。」「この声が聞かれ、また、主催者である隊友会からは、「感染症に決定的な対策がない厳しい状況ではあるが、たとえ参列者がいなくとも慰霊祭を執り行い、我が国の安寧に寄与した御霊に礼を尽くすつもりであった。ご遺族の参列に感謝申し上げます。」「この声が聞かれました。」との声が聞かれました。

鹿児島地本は今後も、111柱の御霊に敬意を表するとともに、ご家族を失ったご遺族の心に寄り添う懇切丁寧な応対を継続し、ご遺族の平穏のために、遺族援護業務を着実に推進していく所存です。

写真:慰霊祭の様子(鹿児島県護国神社)



遺族会会長の祭文奏上



参列者集合写真

令和4年度

感謝状贈呈

防衛省・自衛隊に
対してご支援を頂
いた左記の方に感
謝状を贈呈いたし
ました。(敬称略)

防衛大臣表彰 就職・援護功労

- 全国共済農業協同組合連合会 鹿児島県本部
- 募集功労
 - 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校
 - 学校法人前田学園 鹿屋中央高等学校

西部方面総監感謝状

- 募集功労
 - 鹿児島県立 錦江湾高等学校
 - 鹿児島県立 鹿児島工業高等学校
 - 鹿児島県立 川内商工高等学校
 - 鹿児島県立 加治木工業高等学校
- 援護功労
 - 学校法人 津曲学園
 - 株式会社 サンプラスワン
- 予備自功労
 - 株式会社 即応開発

本部長感謝状

- 一般功労
 - 渡瀬 隆二
- 募集功労
 - 下袴田 由紀子
 - 宇都 隆雄
 - 高井 美柚
 - 川満 悠貴
 - 東 久雄
 - 田中 慶悟
 - 竹本 友樹
 - 鹿屋市立 鹿屋女子高等学校
 - 鹿児島県立 徳之島高等学校
- 援護功労
 - セフト株式会社
 - 国立大学法人鹿児島大学
 - 株式会社 板越林業
 - 株式会社 藤田電装
 - 株式会社 山水
 - 薩摩川内市役所
 - 有島 範明
 - 橋口 知章
 - 川崎 弘一
- 予備自功労
 - 霧島観光交通株式会社
 - 北始良森林組合

各所・センターの話題

「知っとこ！自衛隊」inセンターラス天文館

募集課

自衛隊鹿児島地方協力本部は、令和4年9月3日(土)、4日(日)の2日間、センターラス天文館(鹿児島市)のイベント広場において、「知っとこ！自衛隊inセンターラス天文館」と題し、市街地広報を実施した。

本イベントは、自衛隊の部隊(駐屯地・基地)が所在しない鹿児島市の方々に、自衛隊の活動等を紹介し、自衛隊に対する理解の促進と防衛基盤の育成を図るため企画したイベントであり、本年4月にオープンした「センターラス天文館」では、初めて実施した自衛隊のイベントであり盛況を博した。

当日は、陸上自衛隊第12普通科連隊の支援を受け、災害派遣をテーマにした装備品展示コーナー、2人用天幕及び背のうの体験コーナーを開設した。また、航空自衛隊第5航空団による操縦桿体験コーナー、鹿児島地本広報大使山口ひかりさんの司会による陸海空自衛隊の制服紹介、自衛隊制服試着体験、VR体験コーナー及び鹿児島地本マスコットキャラクター「りっくん」とのじゃんけん大会など、多くのブースを出展した会場には2日間で約1900名の市民の方々が来場した。

来場者からは「こんなに重い物(背のう)を背負って活動して行って凄いですね。」「自衛隊の活動を応援しています。頑張ってください。」など、多数の感想や力強い応援の言葉をいただいた。

鹿児島地方協力本部は、広報活動を通じて、多くの地域住民と触れあうことができ、自衛隊への理解促進及び防衛基盤の拡充を図ることができた。引き続き、鹿児島県内において、自衛隊の活動等を紹介する機会を設け、鹿児島県民の自衛隊に対する理解の促進及び認知度向上に尽力していく。



車両展示コーナー

背のう体験コーナー(約20kg)



りっくん・まもる君と記念撮影



試着して記念撮影



りっくんとじゃんけん大会司会(広報大使山口ひかりさん)



陸海空自衛隊制服ファッションショー

護衛艦「ひゅうが」特別公開

募集課、奄美大島駐在員事務所

自衛隊鹿児島地方協力本部奄美大島駐在員事務所は令和4年9月15日(木)、16日(金)、22日(木)にわたり、奄美大島古仁屋沖及び志布志港において、護衛艦「ひゅうが」の艦艇広報を実施した。

本艦艇広報は、沖合いに錨泊中の護衛艦「ひゅうが」までの移動を、作業艇に見学者を乗せて海上を往復する形式で行われた。

全長197mの「ひゅうが」の船体はまさに壮大であり、艦に近づくにつれ、募集対象者及び招待者の方々は、その大きさに圧倒され、乗艦の際には、安全面を徹底された乗員による誘導や作業艇との連携、洗剤とした動作を、見学者は食い入るように見つめていた。

見学は、「ひゅうが」の特徴である巨大な航空機格納庫内から始まり、概要説明及び若年隊員と募集対象者との懇談が行われた。

見学者からは勤務の内容、寝室の様子、Wi-Fi環境など、具体的な質問もあり、直接現場の声を聞くことができる本広報は、募集対象者及び保護者にとって大変有意義な時間となった。

引き続き、立入検査隊の説明、航空機用昇降機、飛行甲板、哨戒機SH-60Kの展示説明、艦橋での記念撮影など、盛りだくさんの内容に募集対象者及び招待者は大変満足した様子だった。

参加された募集対象者及び招待者の方々は、「ひゅうがの大きさに圧倒された。とにかく楽しい時間でした。」「3時間かけて来た甲斐がありました。ありがとうございました。」など多数の感想及び感謝の言葉をいただいた。

鹿児島地方協力本部は、艦艇広報を通じて、自衛隊への理解促進及び防衛基盤の拡充を図ることができた。引き続き、鹿児島県内において、積極的に自衛隊の活動等を紹介する機会を設け、鹿児島県民の自衛隊に対する理解の促進及び認知度向上に尽力していく。



志布志港沖に錨泊中の護衛艦「ひゅうが」



航空機用昇降機から見上げる艦橋

大島出身の臨時勤務者と記念撮影

若年隊員と見学者との懇談の様子

再就職～その後

川内駐屯地援護センター

川内駐屯地援護センターは、令和4年4月に南九州警備株式会社に警備員として再就職された元2等陸佐 北園 和幸氏(自衛隊鹿児島地方協力本部で退官)に就職後の勤務状況等について話を伺った。

現在北園氏は、交通誘導警備に従事されており、建設会社が道路工事を行う場合や電気工事業社が電線等の工事を行う場合に、工事現場において災害予防に関する会社との調整及び手旗による通行車両の誘導等を行っているそうです。

北園氏からは、南九州警備株式会社での1日のスケジュールや給料、休日等について話を伺った。まず、1日のスケジュールですが、南九州警備株式会社では、社員が会社に出社することが必須ではないため、自宅から工事現場へ直接向かい、午前7時40分から午前8時ころまでに工事現場に到着するようにしているそうです。

工事現場に到着してから工事が始まるまでの間は、労働災害に関する書類の記入、工事現場の危険要因を分析する危険予知、建設会社及び電気工事業社との調整を行っているそうです。

労働時間は工事を行う会社が道路を使用できる時間帯が午前8時から午後5時までと定められているため、ほぼ固定されるとのことでした。

給料については月額20万円程度が支払われ、1週間の労働は平日勤務のほか、必要に応じて土曜日に勤務することもあるそうです。

北園氏からは「退職した自衛官は、退職時に階級があっても会社に入社したら新入社員であるので、そのことを勘違いしないようにすることが大切だ。」とのアドバイスもあり、北園氏自身も業務に慣れ、自分の周囲を見渡せる余裕が生まれるまで約4ヶ月程度かかったとのことでした。

さらに、北園氏はスキルアップのため、交通誘導警備業務検定2級の資格取得を目指して猛勉強中とのことでした。

最後に、北園氏の今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げるとともに、川内駐屯地援護センターは引き続き、退職予定隊員、部隊及び企業の三者が幸せになることを心がけて就職援護業務に邁進して参ります。



話を伺った際の様子

防衛大学校学生との意見交換会

鹿児島募集案内所

鹿児島募集案内所は、令和4年8月7日(日)、防衛大学校在校生と本年度防衛大学校学生採用試験受験予定者との意見交換会を実施した。

本会は、受験に対する不安感の払拭を図る事を目的として開催しているものであり今年度は志願者3名が参加した。

3名の志願者は、防衛大学校柿元学生から、体験談を交え、1次試験対策及び口述試験対策について詳細かつ具体的に説明を受けるとともに、入校後の学校生活等、防衛大学校の魅力及びやりがい等の説明を聞き、さらに防衛大学校への受験意欲を高めることができた。

次に質疑応答では、和やかな雰囲気の中、各学科試験の出題傾向とその対策、勉強方法及び口述等2次試験対策、さらには、入校後の学校生活等、様々な質問があったが、柿元学生は、その一つ一つに丁寧かつわかりやすく答えていた。

参加者からは、「聞きたかったことを防衛大学校生から聞くことができ、受験意欲が高まりました。」「貴重な体験談が聞けてよかったです。」「防衛大学校へぜひ入りたいので、更に勉学に励みます。」などの声が聞かれた。

防衛大学校柿元学生からは、「少しでも参考にさせていただけたら幸いです。ぜひ頑張ってください。合格し、入校してもらいたいです。」との激励の言葉をいただいた。

鹿児島募集案内所は、引き続き、各募集種目の志願予定対象者に対して、受験意欲の向上及び入校に対する不安感を払拭するよう各種の対策を講ずるとともに、より多くの適性かつ入隊意欲の高い生徒の獲得に尽力していく。



意見交換会の様子

予備自衛官補から予備自衛官に任用

援護課予備自班

鹿児島地方協力本部の技能の予備自衛官補4名が、令和4年9月に実施された予備自衛官補の教育訓練に参加し、規定の10日間の教育訓練を修了し、翌日付で予備自衛官に任用されました。

任用された予備自衛官の中には、西部方面隊で初めてとなる遺体衛生保全士(エンパーマー)の資格を持つ陸上の予備自衛官や、佐世保地方隊で初めてとなる3級海技士(航海)の資格を持つ海上の予備自衛官もおり、今後、それぞれの技能を生かし、予備自衛官として活躍することが期待されます。



久留米駐屯地で教育訓練を修了した予備自衛官補



函館基地隊で訓練する予備自衛官補

災害時に活用できるLIFE HACK 「加世田中学校での防災授業」

知覧分駐所

知覧分駐所は、令和4年7月6日(水)に南さつま市立加世田中学校で3学年約120名に対し、防災授業を実施した。

今回の防災授業では、大雨等による浸水被害が予想される際に活用できる土のうの作り方、自衛隊が災害時に使用する装備品の展示、止血帯やAEDを用いた救急法及び被災時に活用できるロープの結索法の4項目に分けて、実習形式で授業を実施した。

参加した生徒達は真剣に授業に取り組み「今回教えてもらった事を生かして、災害の時は自分のできる範囲で困っている人を助けたい。」「実際に災害時に活躍する自衛隊の人たちはすごいんだなあと感じた。」などの意見や感想を聞くことができた。

知覧分駐所は、今後も防災授業等を通じ、生徒の皆さんが自分のできる救命活動や日頃の備えの重要性について伝えるとともに、地域に根ざしている自衛隊をしっかりとアピールし、自衛隊の信頼獲得及び募集活動に尽力していく。



土のう作りの様子



心肺蘇生法の様子



ロープ結索法の様子

隊員紹介「決断一瞬」

募集課

令和5年3月31日付で定年退官される新田恒文 陸曹長を紹介します。

新田曹長は、宮崎県延岡市出身で昭和61年に入隊され、第43普通科連隊(都城)を皮切りに、西部方面普通科連隊(相浦)、鹿児島地方募集案内所を経て、令和2年8月1日に本部募集課先任上級曹長に上番されました。

座右の銘は、「決断一瞬」であり、同郷の大相撲第35代、立行司 木村庄之助さんからいただいたお言葉です。

新田曹長は日頃から自衛官らしく短く刈り上げられた短髪に、部隊で鍛えた名残のある体格と、元気凛冽とした大きな声で、部下隊員に指示を出しつつ、自らもテキパキと働く様子は、まさに「陸上自衛官の上級陸曹像」そのものであり、かつての普通科部隊での姿も容易に想像ができます。

また、ハラスメント相談員としても、普段から、「地本は忙しいやろ?慣れたか?」「休日勤務者は、率先して時間休等を取って、少しでも家族との時間を作るように。」「〇長!!今のはアウトです。」等、隊員それぞれに合った声掛けや、時には冗談を交えた新田曹長ならではの注意喚起など、率先して取り組み働きやすい環境作りに、公私を問わず、相談し易い対応と状況にあった助言に、助けられた募集課員は少なくないと思います。

自衛官としての期間も残りわずかとなりましたが、先任上級曹長下番後も、まったく変わらず、1番乗りで出勤し、隊員募集業務に邁進中です。

鹿児島地方協力本部募集課一同は、新田曹長の体現された「決断一瞬」を、継承し、今後の業務に活用するとともに、募集目標の達成に邁進する所存です。



木村庄之助さん直筆「決断一瞬」

鹿児島地本最大のイベント!自衛隊みなと祭りを開催 ~3年振りの一般公開~

自衛隊鹿児島地方協力本部は令和4年7月30日(土)及び、31日(日)の2日間、鹿児島本港北埠頭において、「自衛隊みなと祭り(一般公開)」を3年振りに開催した。

本広報は新型コロナウイルス感染防止策及び熱中症対策を万全にして実施し、2日間で約7000名の来場があり盛況を博した。

海上自衛隊訓練支援艦「てりゅう」の一般公開、陸空自の支援を受けた、装備品(軽装甲車、人命救助システム、地对空誘導弾ペトリオット発射機及び基地防空用地対空誘導弾)が展示され、また、屋外イベント会場では、鹿児島情報高等学校のダンスパフォーマンス、鹿児島女子高等学校の書道パフォーマンス及び鹿児島高等学校の吹奏楽演奏が行われ、会場を大いに盛り上げた。

屋内イベント会場では、陸・海・空自がそれぞれブースを出展し、VR体験コーナー、南極の氷体験コーナー及び陸海空の制服試着コーナー等を設け、多くの県民の皆様楽しんでいただけたイベントとなった。

来場者からは、「久しぶりのみなと祭りを楽しみにしていました。」「自衛隊の存在を誇りに思います。ありがとうございます。」などのお言葉をいただいた。

鹿児島地方協力本部は、今後も、自衛隊みなと祭りなど各種イベント等を通じて、自衛隊の認知度向上に努めるとともに、地域とともにある自衛隊をしっかりとアピールしつつ、自衛隊に対する信頼感の醸成及び各種隊員の募集に資する活動を積極的に実施していく。



満艦飾を実施した訓練支援艦てりゅう



訓練支援艦てりゅう
一般公開



手旗信号チャレンジ
(鹿児島地本広報大使じゃんけんマン)



装備品展示(陸自)
(第12普通科連隊)



装備品展示(空自)
(第5航空団)



屋内イベント会場
海自移動広報
(南極の氷体験)



会場を盛り上げた
高校生パフォーマンス
(吹奏楽演奏 鹿児島高校)

人事往来

【転出者】

自衛官

- 2等陸佐 竹迫 孝一
自衛隊東京地方協力本部へ(渉外補佐官)
- 准陸尉 土嶋 健二
東千歳駐屯地業務隊へ(援護課)
- 1等海曹 坂元 謙二郎
鹿屋航空基地隊へ(国分地域事務所)
- 1等海曹 黒岩 信久
第5航空隊へ(知覧分駐所)
- 2等海曹 田中 秀享
鹿屋航空基地隊へ(鹿児島地域援護センター)
- 2等海曹 西郷 達城
第201教育航空隊へ(募集課)
- 3等海曹 末村 智征
鹿屋システム通信分遣隊へ(大隅地域事務所)

【転入者】

自衛官

- 3等陸佐 永吉 健一
渉外補佐官(中部方面後方支援隊から)
- 2等陸尉 中野 寛裕岐
薩摩川内出張所(北熊本駐屯地業務隊から)
- 陸曹長 有村 龍一
国分地域事務所(第113教育大隊から)
- 1等陸曹 橋口 光利
総務課(第364会計隊から)
- 1等陸曹 深渡瀬 明広
薩摩川内出張所(第8施設大隊から)
- 2等陸曹 大窪 彰太
募集課(自衛隊体育学校から)
- 2等空曹 西牟田 真司
総務課(第17普通科連隊から)
- 2等陸曹 児玉 千春
総務課(第302地对艦ミサイル中隊から)
- 2等海曹 東 清一
大隅地域事務所(第201整備補給隊から)

【臨時任用による採用 事務官】

西田 ひかり 募集課

- 3等陸尉 福満 由美子
- 准陸尉 船附 則夫
- 准陸尉 本川 秀幸
- 陸曹長 井野 博恭



Japan Self Defense Forces 人を守る。という、やりがい。

鹿児島地本 HP



本 部	電 話 番 号
自衛隊鹿児島地方協力本部	099-253-8920(代表)
事 務 所 名	電 話 番 号
薩摩川内出張所	0996-22-2401
鹿屋地域事務所	0994-42-4386
国分地域事務所	0995-45-1836

大隅地域事務所	099-482-1405
鹿児島募集案内所	099-251-7802
知覧分駐所	0993-83-1811
奄美大島駐在員事務所	0997-53-9103
種子島駐在員事務所	0997-23-0299
徳之島駐在員事務所	0997-83-3080



陸海空自衛官募集



鹿児島地本

検索

